

infoterla VISION

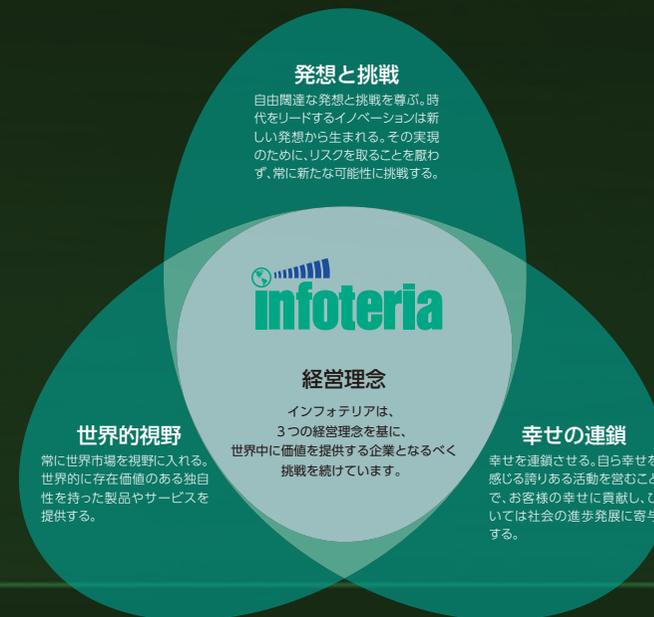
第19期報告書 2016.4.1～2017.3.31

インフォテリア株式会社

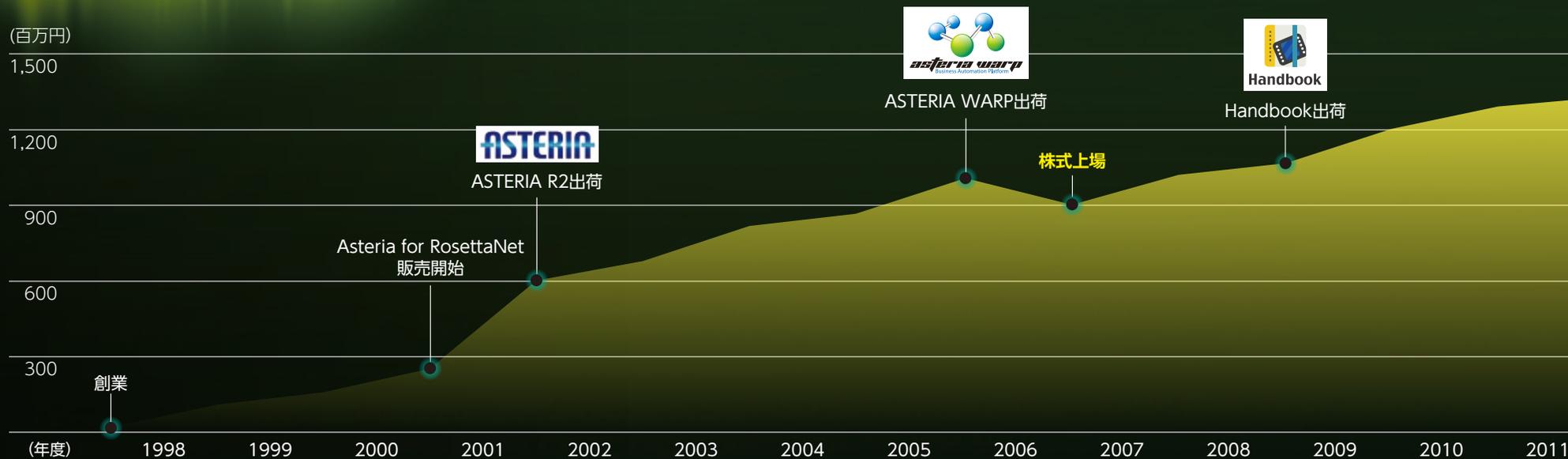
「つながり」による価値の創造。

私達インフォテリアは、インターネットという巨大ネットワークを活用した新たな「つながり」によってもたらされる企業価値創造の変革こそが、これからの社会のありようの進化であると確信しています。

「ASTERIA」や「Handbook」をはじめとする製品群、卓越した先見性と技術、そして豊富な実績をベースに、インフォテリアは、人と人、ビジネスとビジネス、そして世界を「つなぐ」エキスパートとして、企業の価値創造を飛躍的に高めるソフトウェアとサービスを開発・提供し、社会に貢献してまいります。



売上高と沿革



※2016年度までは日本基準、2017年度からはIFRSでの表記としております。

ごあいさつ

Top Message

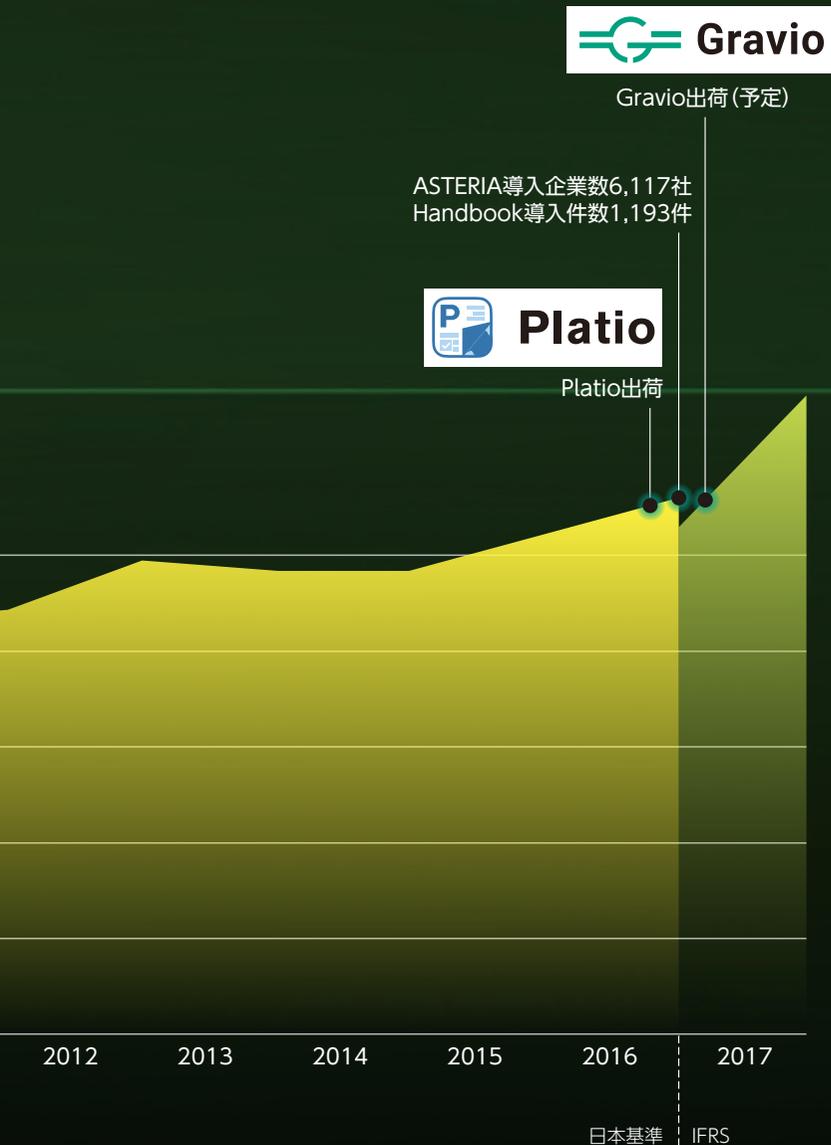
インフォテリアのビジョン「つなぐ」は、システム、ヒトからモノへと未来に向かって着実に進化しています。



株主の皆様には、平素より格段のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。当連結会計年度における業績は、売上収益1,621百万円(前期比2.1%増)、営業利益301百万円(前期比10.5%増)の増収増益となり、特に収益面で大きな改善を果たすことができました。また、期末配当につきまして、業績が順調に推移した結果として、1株当たり3円90銭(前期は3円10銭)の増配とさせていただきます。

中期経営計画の達成に向けた施策も着実な成果を残すことができ、今後も当社事業の拡大とさらなる企業価値、並びに株主価値の高揚に取り組んでまいりますので、今後のインフォテリアにご期待ください。

代表取締役社長 / CEO 平野 洋一郎



中期経営計画の進捗について

Medium-Term Business Plan

インフォテリアでは、2017年3月期から2019年3月期にかけての3か年にわたる中期経営計画を実行中です。

1年目を終えた2017年3月期末時点で計画は着実に前進いたしました。

そして2018年3月期末時点で大きな進捗を遂げることができると予想しています。

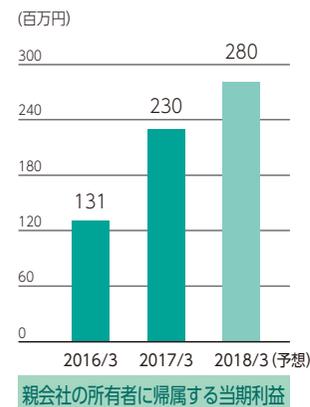
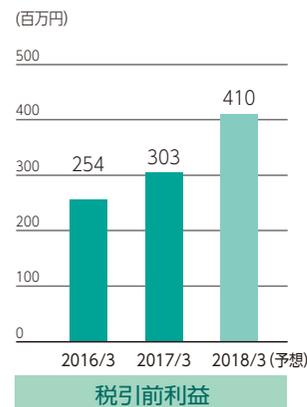
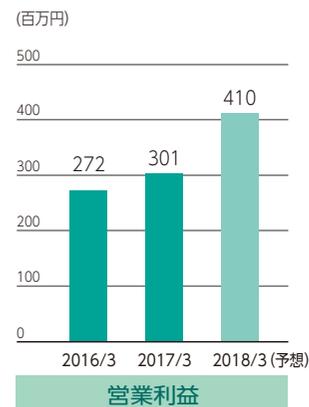
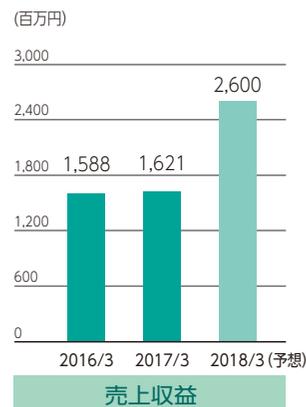
今後も「中期経営計画5つの指標」の全項目の目標達成に向けて、

さらに邁進してまいります。

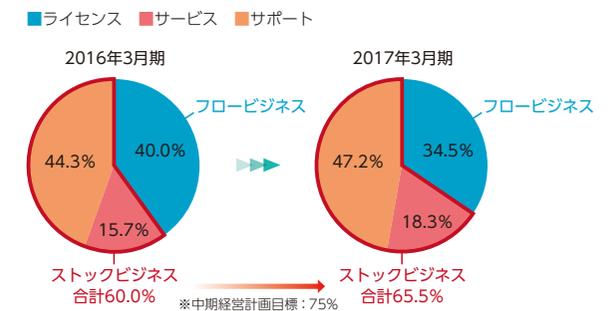


中期経営計画5つの指標

	2019年3月期 中期経営計画	2018年3月期 業績予想	2018年3月期 予想での達成見込み
売上収益	24億円	26億円	達成見込み
営業利益	6億円	4.1億円	約7割
海外比率	20%台	約3割	達成見込み
フロー売上率	20%台	精査中	精査中
営業利益率	20%台	15.8%	約8割



フロービジネス比率の推移





インフォテリアが成長するための新たな “D”

これまでインフォテリアでは、3つの“D”について考えてきました。ひとつは「Data」、もうひとつは「Device」、そしてもうひとつは「Decentralized(分散化)」のDです。さらに、今期この3つの“D”に新しく「Design」が加わりました。

どんなに素晴らしい機能を持っていても、扱いにくければ良い製品とはいえません。当社は「デザインファースト」「デザイン思考」のもと、デザイン戦略コンサル会社This Place(英)の買収を行いました。

これからもインフォテリアでは、企業本体だけでなく製品の価値も向上させる積極的な施策を推進してまいります。

Data (Big Data & AI)
データのみが企業IT資産になる

Device (Smart & IoT)
デバイスが不可欠なインフラになる

Decentralized (分散化)
分散して協調ができる「個」の時代になる

+ **Design!!**



インフォテリア代表取締役社長 平野と
This Place 共同創業者兼 CEO Dusan Hamlin
との対談は冊子後ろからご覧ください。

IoT 対応ソフトウェアのラインアップが充実

また、中期経営計画を発表した際にご紹介したソフトウェアについての進捗をご紹介します。“Hawking”は正式に“Platio”として、“Tristan”はThis Place社とのコラボレーションにより“Handbooks”としてリリースしております。

そして、残る3つ目の“Gravity”は“Gravio”としてリリースいたします。IoTアプリのノンプログラミング環境を提供するPlatio、コンテンツプラットフォームのHandbooks、エッジコンピューティングプラットフォームのGraviolによって、インフォテリアはIoT時代を「つなぐエキスパート」として成長してまいります。

IoTアプリのノンプログラミング開発プラットフォーム

“Hawking”



Platio

組織を超えたコンテンツプラットフォーム

“Tristan”



Handbooks

エッジコンピューティングプラットフォーム

“Gravity”



Gravio

財務ハイライト

Financial Highlights

当連結会計年度における売上収益は1,621百万円(前期比2.1%増)、営業利益は301百万円(前期比10.5%増)、税引前利益は303百万円(前期比19.2%増)、親会社の所有者に帰属する当期利益は230百万円(前期比76.5%増)となりました。



会社情報

Corporate Information

会社概要 (2017年3月31日現在)

商号	インフォテリア株式会社 Infoteria Corporation
設立	1998年9月
本社	〒140-0014 東京都品川区大井一丁目47番1号 NTビル10F TEL:03-5718-1250
西日本事業所	〒530-0001 大阪府大阪市北区梅田二丁目4番13号 阪神産経桜橋ビル 3F TEL:06-6344-1065
資本金	11億3,846万円
事業内容	XMLを基盤としたソフトウェアプロダクトの開発・販売
従業員数(連結)	76名
海外拠点	<ul style="list-style-type: none"> ● Infoteria America Corporation ● 亿福天(杭州)信息科技有限公司 Infoteria (Hangzhou) Information Technology Co., Ltd. ● 櫻枫天(上海)贸易有限公司 Infoteria China Co., Ltd. ● Infoteria Hong Kong Limited ● Infoteria Pte. Ltd.

役員の状況 (2017年3月31日現在) ※は社外役員

代表取締役社長 / CEO	平野 洋一郎
取締役	※ 五味 廣文
取締役	※ 田村 耕太郎
取締役	※ Anis Uzzaman
常勤監査役	※ 赤松 万也
監査役	尾崎 常行
監査役	※ 井上 雄二
監査役	※ 小口 光
執行役員 副社長 / 最高技術責任者	北原 淑行
執行役員 / 最高財務責任者	齊藤 裕久
執行役員	黄 曦

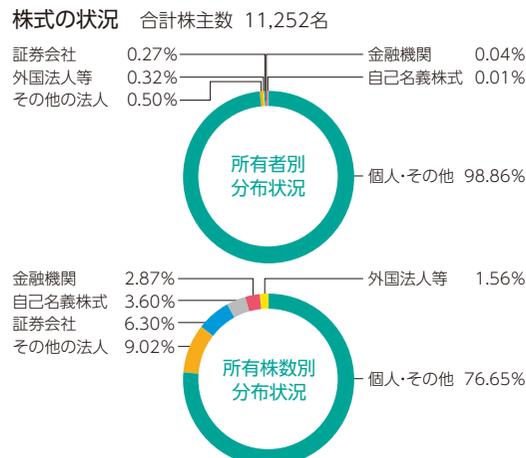
株式情報 (2017年3月31日現在)

発行可能株式総数	44,600,000株
発行済株式の総数	15,403,165株 (自己株式554,219株を含む)
株主数	11,252名

大株主 (上位10名)

株主名	当社への出資状況	
	持株数(株)	出資比率(%)
平野 洋一郎	2,040,000	13.74
北原 淑行	957,200	6.45
パナソニックインフォメーションシステムズ株式会社	550,000	3.70
株式会社ミロク情報サービス	528,000	3.56
日本証券金融株式会社	299,300	2.02
楽天証券株式会社	284,900	1.92
株式会社SBI証券	247,200	1.66
古谷 和雄	240,000	1.62
中村 智史	124,800	0.84
BARCLAYS CAPITAL SECURITIES LIMITED	122,700	0.83

(注) 1. 当社は自己株式554,219株を保有しておりますが、上記の表には記載しておりません。
2. 持株比率は自己株式(554,219株)を控除して計算しております。



株主メモ

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
証券コード	3853
上場証券取引所	東京証券取引所(マザーズ)
決算期日	3月31日
定時株主総会	毎年6月
基準日	3月31日
公告の方法	電子公告 ただし、やむを得ない事由により、電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載する方法により行います。
株主名簿管理人	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 通話料無料 0120-232-711
特別口座の口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
同連絡先	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 通話料無料 0120-782-031
ホームページ	https://www.infoteria.com/

ご注意

- 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行株式会社)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
- 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三井住友信託銀行株式会社が口座管理機関となつておりますので、三井住友信託銀行株式会社にお問い合わせください。株主名簿管理人である三菱UFJ信託銀行株式会社ではお手続きできませんのでご注意ください。
- 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

皆様の声をお聞かせください!

infoteria VISIONについてのアンケートご協力をお願い

infoteria VISIONを最後までお読みいただきましてありがとうございました。インフォテリアWebページ上に本号に関するアンケートをご用意いたしましたので、お手数ですが、回答のご協力をお願い申し上げます。なお、ご回答いただいた方の中から抽選で20名様に500円のQUOカードを進呈させていただきます。



QRコード

アンケートページはこちら https://www.infoteria.com/jp/contact/enq/ir_2017/

インフォテリア、ASTERIA、Handbook、Platiolは、インフォテリア株式会社の登録商標です。その他、各会社名、各製品名は各社の商標または登録商標です。

IRメルマガ配信中

インフォテリアの最近のニュースやトピックス、キャンペーン情報などを、「Infoteria VISION@Mail」として配信いたします。

こちらから
ご登録
いただけます



https://www.infoteria.com/jp/contact/mail/ir_entry/

Fintech

デジタルトークン「Zen」の社会実験を開始

これまで、世界中で様々な仮想通貨が作られ流通してきました。しかしながら、最大の流通量を誇るビットコインですら、各国の法定通貨(米ドルや日本円など)に対する為替の変動が激しく、多くの企業において、実際のビジネス決済に使用するにはリスクが高く、企業活動における仮想通貨の普及を妨げる要因となっていました。

Zen(「Yen」の一歩先を行く仮想通貨として名付けられた)は、対日本円為替レートが安定的に推移する仮想通貨を作り出すことができるかどうかについて社会実験する日本初のプロジェクトです。いくつかの段階(フェーズ)を踏まえて実験・実証を繰り返し、新しい仮想通貨の構築やブロックチェーン技術の推進・発展に寄与することを目的としています。

当社は一般社団法人ブロックチェーン推進協会(代表理事 平野洋一郎)における事務局としてこのプロジェクトに参加。プロジェクトへの協力を通して、より豊かで便利な社会づくりに貢献してまいります。



CSR

ダイバーシティの推進を考える国際フォーラム「PRIDE AND PREJUDICE」にインフォテリア代表 平野洋一郎が登壇

香港で開催された「PRIDE AND PREJUDICE」というフォーラム(英Economist主催)に当社代表取締役社長の平野がパネリストとして参加いたしました。各国でLGBT*1に積極的に取り組んでいる企業から、トップとしてダイバーシティ、特にLGBTにどう取り組むのかということ議論するセッションです。

今回の出演は、当社がかねてよりダイバーシティの推進に注力していること、特に保守的であるアジア社会において日本企業の先行事例として活動し、それらを積極的に発信することであらゆる人が共生できる社会づくりの先導役を担っていることなどが評価され実現しました。

2016年10月には「PRIDE指標*2」において「シルバー」を受賞するなど、引き続き当社では社員が働きやすい環境づくりを推進してまいります。

*1: レズビアン、ゲイ、バイセクシャル、トランスジェンダーの総称。

*2: 性的マイノリティに関するダイバーシティ・マネジメントの促進と定着を支援する任意団体「Work with Pride」(wwP)が定める、日本初の企業のLGBTに関する取り組みの評価指標。



社外取締役からのメッセージ

インフォテリアの社外取締役に就任しての意気込みをお聞かせください。

サラリーマン、経営者、政治家、政府高官、教員、研究所と多彩な仕事で日本、アメリカ、アジア、欧州と渡り歩いてきた私は、現在、シンガポールを拠点に日本、アメリカ、アジアを移動しながら、金融、データ分析、ヘルスケア、教育等、複数のグローバル企業のアドバイザーをしております。そんな中でインフォテリアは私が貢献させていただける数少ない日本企業です。それは平野社長はじめ経営陣が、最初からグローバルな事業展開を目指し、そのために意思決定が速く、世界に向けて果敢に挑戦しているからです。つい最近も時代の流れの先を読み、英国のデザイン会社を買収しました。クロスボーダーのPMI(事業統合)こそ私が貢献させていただけるので

はないかと思っていましたが、そういう状況が予想より早く来て驚きながらもワクワクしています。私も国外をベースに仕事をしていますので、インフォテリアの高度人材獲得に貢献していきたいです。

株主の皆様には、インフォテリアがこれから未来に向けて世界の先頭を走るために、今後とも人材に投資していくことを温かく見守っていただきたいと思います。本来でしたら、配当含め多彩な株主の皆様への恩返しができるインフォテリアの財務状況ですが、今こそ未来に向けて投資していくことを引き続きご支援いただきたいと思います。



田村 耕太郎
社外取締役(Director)

国立シンガポール大学兼任教授
米国Milken InstituteのFellow

infoteria VISION

対談「デザイン主導が新しいエンタープライズソフトウェアを切り開く」 インフォテリア株式会社

デザイン主導が新しい エンタープライズソフトウェアを切り開く

インフォテリアが買収した This Place 共同創業者兼 CEO との対談

対談

平野 洋一郎

インフォテリア代表取締役社長/CEO

Dusan Hamlin

This Place 共同創業者兼 CEO



— This Placeの成功を
教えてください。

Dusan Hamlin (以下: Dusan):
ワールドワイドクラスの企業の
デジタルデザインを手がける
ために、2011年に創業しま
した。

技術主導ではなく人間の要素

のあるデジタルデザインを提供
することを目標に掲げていま
す。スタート当時から、世界の太
手ブランドをターゲットとし、
T-Mobile, Samsonite, BBCな
どを顧客としてお持ち。

— お互いを選んだ理由は何で
しょうか。

平野洋一郎(以下: 平野):これ
までも、インフォテリアは世界
に通じるソフトウェア開発を行っ
てきました。最先端のテクノロ
ジー(技術)とメソッドロジー(手
法)を使うことで、エンタープラ
イズソフトウェアを新しいレベル
に押し上げてきたと自負してい
ます。そのために、当初からGTM
を用いてノン・プログラミングで

Dusan Hamlin This Place 共同創業者兼 CEO

イギリスのアングリア・ラスキン大学で経済学を学ぶ。その後デジタルエージェンシーに勤務後、Inside Mobileを立ち上げ、CEOを務める。Inside Mobileを広告エージェンシーM&C Saatchi Groupに合併させた後、2011年にデザイン思考コンサルや戦略開発を手がけるThis Placeをロンドンで創業する。わずか5年で売上高480万ポンド(約6.75億円)を超え、税引前利益180万ポンド(約2.5億円)を達成。米シアトルにも拠点を持つ国際企業に成長させた。

簡単に使えるソフトウェアを開発してきました。ですが、業界の進化のスピードは速く、顧客のニーズを満たし、ソフトウェア業界をリードするためにはデザイナー主導のソフトウェアが必要だと認識しました。

Dusan：経営者として、自社の強みと弱みを理解することは大切です。私たちの強みはデザイナーです。世界に通じるソフトウェアをデザインすることができません。しかしワールドワイドのソフトウェアの開発は弱いところなのです。そのため、This Placeはこれまで他社の技術との協業に注力してきました。

インフォテリアはバックエンドの開発におけるスキルが卓越しており、ここの魅力を感じています。This Placeがフロントエンドでもワールドワイドのデザイン開発と組み合わせることによって、これからの時代に完全にマッチした製品を作ることができません。将来、様々な可能性が開けると期待しています。

平野：インフォテリアは、Data (Big Data & AI), Device (Smart & IoT), Decentralized (分散化)の3つの「D」をそれぞれがの「ポイント」を捉えて戦略を展開してきました。今回、4番目の「D」を「Design(デザイン)」を加えます。This Place買収*1の理由もここにあります。



社長室長 吉田 晋司

す。これからのエンタープライズソフトウェアは明らかにデザイナー主導で開発されるようになります。This Placeも世界をリードする新世代のソフトウェアを開発することができます。

— This Place買収後のインフォテリアの目標をお聞かせください。

平野：インフォテリアは東京を拠点とした企業ですが、健全な財務状況と日本市場での実績をベースに、This Placeの欧米でのポジションを生かして世界市場の開拓を目指します。目標は、創業以来得意としてきた「つながるソフトウェア分野で、革新的な製品を世界市場に提供すること」です。買収はインフォテリアグループの新しい成長にとって大きな一歩となります。

Dusan：このことを進めます。*2、This Placeの顧客に、開発主導のサービスを提供できるようにになります。この目標として、インフォテリアとともに新しいプロダクトを開発します。2社の協業で実現する4つの「D」、インフォテリアの開発力にThis Placeのデザイン専門知識や経験を加えることで、真にグローバルなソフトウェアソリューションを構築します。インフォテリアグループでの新しい製品の開発に私自身とても期待しています。



— 2社は「Handbook (Handbook)の次世代製品」で協業済みですが、協業のきっかけ、協業を通じて得たものは何でしょうか。

平野：Handbookはクラウドベースのモバイル機器用ソフトウェアで、日本ではSaaS型モバイルコンテンツ管理市場の製品別売上金額で国内市場シェアナンバー1*2を誇ります。成功した製品ですが、将来のアップデートアプリはもっとデザイナー主導であるべきだと考えていました。そこで、次の世代ではUIを新しいデザインにするだけでなく、製品の構造も「デザイン主導」を取り込もうと考えました。3年かかるとの予測です。そこで、駐ロ英国大使館を通じて知り合ったThis Placeと協業することにしました。2年前に共同作業を開始し、Tristanを新しいソフトウェアとして作成しました。Tristanは英語圏市場ですぐに提供を始めています。

Dusan：Tristanの設計開発にあたって、私たちのデザインや経験を活用しました。すでにHandbookと同じ日本市場で

*1：買収金額は700万ポンド(約10億円)。今後5年間で業績によるインセンティブを支払うアーンアウトスキームをとる。

*2：アイ・ティ・アール社「ITR Market View:エンタープライズ・モバイル管理市場2016」による。



対談のロングバージョンを WEB で公開中です。
https://www.infoteria.com/jp/news/newsttopics/2017/06/25_01.php

成功している製品を他の市場向けに作成するという点で、私たちがとって新しい挑戦となりました。言語はもちろん、デジタルツールをどのようにつかうかは地域で異なります。世界市場で提供するにあたってデザインの面で正しいアプローチを探ることが要求されました。これは、とても良い経験になりました。

平野：協業で学んだことは、Handbookは7年以上にわたって日本のお客様のフィードバックをベースとしていたことから、ユーザーインターフェイスと機能が複雑化してしまったということです。グローバル市場で展開するためには、もっとシンプルにする必要があります。デザイナー主導とは、機能をたくさん盛り込むことは異なります。これは新しい世代のソフトウェアで重要な考え方の一つ。

TristanはThis Placeと協業したことで、インフォテリアの製品をもっとデザイナー主導に改善できるという社がベストマッチであるのことに実感しました。このプロセスが今回の買収はTristanの具体的な経験が土台となっているのです。

ー インフォテリアの買収戦略についてお聞かせください。

平野：ソフトウェア事業は動きが速い業界です。Google、Facebook、Oracle、Microsoftといった国際的なソフトウェア企業は、いつも多数のM&Aや提携を通じて成長しています。一緒に成長できる素晴らしいパートナーを見出すことは、成長戦略

にとって重要です。

インフォテリアは創業当初から世界戦略のためのパートナーを探していました。これは簡単なことではありません。ですから同じビジョンを共有できるDusanとの出会い、This Placeがインフォテリアグループの一員になったことを大変嬉しく思っています。

ですがこれで終わりではありません。スタートです。ソフトウェア業界は間違いなく今後も速いペースで動きます。さらに加速するにつれて、インフォテリアはThis Placeとともに新しい戦略を立て、ついで自分たちの強みと力を強化し、加速していくかを継続的に話し合い実現していきます。

M&A戦略は今後も継続します。素晴らしい製品やサービスにつながる企業を探し、出資や買収を進めます。

ー 株主の皆様へのコメントをお願いします。

Dusan：This Placeは創業以来、急成長を遂げてきました。短期的には財務面で貢献でき、中長期的にもインフォテリアのやがなる成功につながると確信しています。たとえば、両チームの密な協業により素晴らしい製品を一緒に開発することができ、This PlaceにApple、Google、Facebook、Accenture、IBMなどの世界的なIT企業からメンバーが集

まっております。顧客とともに最高のデザインを実証してきました。平野さんと一緒に作業をし、インフォテリアとともに目標を達成することを楽しみにしています。それぞれの強みを持ち寄り、正しい方向を定めて成長を図ります。

平野：過去には日本企業による海外企業買収で失敗も多かったようですが、私たちはともに将来の成功を確信しています。そして、この買収は海外企業との提携の成功例になるでしょう。株主の皆様には、私たちがビジョンの実現を通じて必ず素晴らしい結果を出すという点を信じていただきたく思います。Dusanが話した通り、短期的にも中長期的にも、今回の買収がもたらす成果は大きなものになるでしょう。ぜひ、これからのインフォテリアにご注目ください。

